



発行所 東京片貝会 東京都江東区高橋5-1-313 電話 (632) 0156

# 春の集い (第26回) ご案内

## 共に語り、郷里の近況を知る

### よき機会を持つとう

#### 昭和60年5月26日(日)

新緑の目に泌みる頃を迎え、健やかに活躍のこととお喜び申しあげます。ここに左の通り、春の集いを開催することになりました。

この好時節に、同級の皆様、知己の方々語りあつて、交わりを深めることは、まことに意義深いことと思ひます。郷里は今、時の進展と共に大きく発展しようと思ひます。片貝を代表する皆様方をお招きして、その近況を伺いたく思ひます。

日々何かとご多用のことと存じますが、どうぞ多数ご参加下さいませ。よう、ご案内申し上げます。

- 一、日時 60年5月26日(日) 午後一時(正午より受付)
  - 一、会場 東京新鴻原人会館(台東区上野一丁目13-6) 営団地下鉄「湯島」二分(千代田線) 上野広小路 六分(銀座線、国電「御徒町」七分)
  - 一、会費 四〇〇〇円(料理・果物・飲み物)
- 返信は五月二十日までにお送り下さい。

## 同級会だより

十二同志会 3月3日  
 たるま市で賑わう深大寺を参詣して、植物園の梅林を鑑賞。この後園布の仙川で懇親会。男性のみ6人が集った。

十三年会 毎年六月の中下旬に会合することになっているが、具体的な計画はこれから。

昭生会 59年5月12日  
 初夏の新芽が芽る秩父路を探勝奥飯能の料亭で、東京方面10名と片貝からもろろ名参加して懇親会。

## 会の動き

### 60年新年の集い 1月27日

#### 一面参照

#### 母校を励ます会世話人会

新年会の宴、たけなわの中に、世話人会が別室で、今後の運営について話し合った。図書贈呈は予定通り実施するが、それ以後の推進については、今後も引続き検討することとした。

#### 役員会 3月24日

26回総会の運営について、細目を協議した。その後四月にやる奇鸞荘花見の旅の実施について話し合った。会場は秀和ビル会館で、16名出席した。

#### 3月25日

母校の講演会について  
 閉会となった。  
 二六雷雷会  
 本年歳暮を迎えるにあたり、昨年七月に三泊四日の北海道旅行を実施した。三十名参加したが、このような企画は、恐らく片貝でも始めてのことだったといふ。

#### 秋祭りの計画は、盛大に参加すべく、目下検討中。

#### 和風会 2月24日

一か月遅れではあったが、三年ぶりの新年会を、石川台の京浜という店で開催した。二十名出席。本年五十五歳のお祝い、十日の感にスターマインを奉納して、さきで鑑賞することになった。

#### ゆくて会 2月16・17日

東京支部が始めての宿泊懇親会

#### 毎年秋に、母校を励ます会主催の記念講演会を開いている。今度で四回目となる。この講師には、小野 勇先生(四の町出身、23年卒、国立がんセンター勤務)にお願いすることになっているので、正式に佐藤が訪問して快諾をいただいた。四面参照

#### 奇鸞荘花見の旅 (4月14・15日四面参照)

会費について  
 先母でもお願いしてありますが昭和60年度から、従来八〇〇円だった年会費を二〇〇〇円に引き上げていたいております。諸費がさむ折にて、まことに恐縮ですが、よろしくお願い申し上げます。

#### 2月11日

陽光会  
 神田の兵衛という料亭で同級会片貝から十一名、東京から二十名出席して、賑やかに懇親会。本年42歳を迎えるので、尺玉や二尺玉をたくさん掲げて、祭りを盛り上げるようになった。

#### 2月17日

十三回会  
 来年四十二歳を迎えるので、その準備を今から始めることになった。当日はこの相談を兼ねて、新宿で懇親会。片貝から五名、東京が十五名出席して、賑やかな会合であった。

## 片貝出身者による

### 著書紹介

#### ランブの村の子・佳話

横山 京著、定価一八〇〇円  
 著者が少女時代を過ごした、片貝の風物や行事を興味深く書き綴ったもの。このほか片貝に関係深い母著、武見太郎、石黒忠威、浅田壮太郎先生など、先哲の物語が佳話として載せてある。

#### ご希望の方は、奇鸞荘の広井氏か直接著者へ。隣町市蔵佐町三十七三三まで

#### 鍼灸ひとすじ・回顧録

大矢(郎著)(非売品)  
 大矢さんが二十二歳の時、片貝を出て、大阪の交野市で鍼灸治療師として成功するまでの体験記。数々の奇蹟を乗りきって、今日の地位を築きあげた記録は、一読の価値がある。ご希望の方は、直接ご連絡を。

#### 大阪府交野市私部西二二二

#### 一一大矢三郎

#### (TEL)072-219117

#### 三三

#### 書体鑑字典

#### 黒崎敬五郎著 定価三五〇〇円

片貝を代表する書家、辨證書道会の黒崎君、著者が長年わたって研究したものを携帯用としてまとめたもの。字のなりたちを知るのに大変役に立ち、興味深い。草書字典にもなっている。

#### 大田区田園調布南26-12

#### (TEL)03-7501035

# 六十年の初頭を飾る

## 楽しかった新年の集い

### 新潟県人会館 (昭和60年1月27日)

例年になくしのきよい日が続いている。おたやかな正月だ。新会長勝又さんが、始めての新年会であったが、九十名を越す盛会となり、何よりのことだった。

### 年頭のあいさつ

開会のことばについて、会長の年頭の辞。続いて母校を励ます会の代表、佐藤祐一さんから、会の現況について報告があった。この後安達前々会長と佐藤前会

長からも、それぞれお祝いを述べられた。特に前会長が、母校を励ます会の事務を取扱っている関係もあり、今後長く会の活動を続けていきたい旨の要望を、熱っぽく述べ、皆さんの共感をいただいた。

### 盛りあがる懇親会

広井顧問の乾杯で、懇親会に入っている。広井さんから、静岡在住の横山京さん(昭2・池津)が、最近出版した著書についての紹介があった。(本については別に紹介)

妻が賑やかにあった頃、恒例の福引が始まる。今年も、皆様からの寄付をいただいたかないで、大矢幸治さんが苦心に苦心を重ねて企画された、落し玉ばかり。それに松下利夫さんの絶妙な進行に、一同思わずため息が出たり、拍手かっさいとなる。

名残りは  
尽きず



宴もいよいよよたけなわとなる。つきつきと歌が歌われ、会場は一層湧きだした。

最高潮に達した頃、ほぼ全員が参加して、木遣いを大合唱して、名残り尽きないうちに、閉会となった。

尚、当日広井三三次、三重堀繁蔵、堀井豊作三氏よりご祝儀をいただいた。厚くお礼申します。

### 出席者(九一名) 敬称略

- 大正6、10 安達重作、高桑キイ、広井三三次
- 大正11、15 吉原ヤウ
- 相崎尚次、神林徳次、渡辺左武郎
- 佐藤量八、安部盛治、大矢福次、水内修治、安達宗吾、安達徳太郎
- 高橋清雄、星野三作、三重堀繁蔵
- 昭和2、10 相崎勇次、小川茂雄、浅田喜八郎
- 山口ヨシ、松井重治、小野塚マツ
- 丸山広弥、吉井武二、日下部政子
- 芝五郎、浅田鉄二、石黒佐恵太
- 丸山とし、藤田睦子、山口三郎
- 丸山 春、勝又 功、三重堀新一
- 黒崎孝造、小宮竹次、本田松次
- 吉原彦作、田口タス、黒崎敬五郎
- 大矢幸治、藤塚勝次、山口武一郎



### やせかまど 解説

#### 近く出版の予定

郷里の先哲として、広く敬愛されていた浅田壯太郎先生がなくなられて、早くも3年経った。生前やせかまどの校本を出版されたが、読む人は皆、その難解なのを歎いていた。

郷土の文化遺産を、広く皆さんに理解していただきたいとの念願から、佐藤量八さんが先生の解説放送をまとめ、和訳して近く出版される。農協の本田組合長、郷土史研究会長の吉原芳郎さんほか、多くの方々、この出版に協力している。

### 会員近況

安達宗吾さん(大13) あらゆる機械に欠かさないネジを作り続けて五十年。従業員と関係者を雅叙園に招いて、3月24日に盛大な祝賀会があった。今後のご発展を祈ります。

黒崎敬五郎さん(昭6) 書道界の雄として、全国的に注目されている同氏の書道展が、銀座で四月三日より七日まで開催された。第8回墨游展。黒崎さんの著書については一面参照。

堀井豊作さん(昭9) 皮革業界で活躍している、池津出身の堀井さんの工場が、目下改築中である。六月には三階建(延百五十坪)の工場として生まれ変わる。益々の発展が期待される。

### 税務のこと・何でも相談

親味におせわ致します

税理士  
勝又 功 (昭6・池津)  
江東区高橋5-1-313  
(03-632-0156)

### 健康増強に銃剣道を

ご希望の方はぜひご参加を  
七段  
黒崎 音吉 (昭13・屋敷)  
西多摩郡羽村町緑ヶ丘4-9-26  
(0425-54-1916)

時代の先端をゆく  
精密機械製作

### 新越精機 KK

藤塚 悟 (昭和31・屋敷)  
葛飾区奥戸1-10-3  
(03-696-0561)

# 母校を励ます会・その後

## ご協力に感謝いたします

講演会と図書寄贈を続けて、三年目を迎えました。母校の児童生徒は勿論、町の皆様からも感動を呼んでいます。これからも休むことなく、水統したいと思っております。どうぞお力を貸して下さい。

- 大15 三重堀繁蔵
  - 昭3 芝 五郎(2)
  - 昭5 佐藤フミ(2)
  - 昭8 芝三四司(2)佐藤彦一(2)
  - 昭9 石田定子(2)
  - 昭9 武藤睦子(3)
  - 昭10 市毛トミ
  - 昭13 山口福次(2)高橋四郎(2)
  - 昭15 佐藤修司 横田トシ
  - 昭19 山口文三(2)
  - 昭20 小野塚洋一
  - 昭21 本田 徹
  - 昭23 大貫悦子 浅田 勇
  - 昭26 安達 実 千葉悦子(2)
  - 昭27 松岡規子(2)黒崎紀雄(2)
  - 昭29 吉原 勉
  - 昭29 小宮信雄
  - 昭35 渡辺信夫
  - 長岡市 佐藤正治 高橋くら
- ( )の数字は基金回数を示す

# 奥湯河原 花の旅

## これで6回目 4月14~15日

桜はいつ咲くか、咲けばこんどはいつまでもつか。四月がくると、みんな気もそぞろとなる。

### 花に誘われ

去年は固いつぼみの花見となったが、今度はちらほら散り出す中で、ほかほか陽気の最高の日和となった。心うきうき、絶好の花見となった。

正午に湯河原駅に集って、一路花見台に向かう。いつものように広井さんが駅まで出迎えてくださる。今をらんまん咲く花の下でおでんや焼きとりで、ビールを飲み交わしながら、美しい花をしばし味わう。

### 懇親の輪広がって

花見台から青草荘に戻って、岩風呂に入っている。海音を聞きながら、幾分ゆるめの野天風呂につかると、身も心もゆつたりとなる。

夕食の前に、みんなで楽しいゲームを楽しむ。相崎副会長のアイデアである。

この後、広井さんが所蔵している、片貝関係の貴重な資料が展示されて、この解説があった。その中には島崎徹先生の伝記、高知尾さんに関する本と資料、石黒忠恵氏の著書、浅田壮太郎先生の手紙などなど、どれも見のめがたいものがあった。

宴会の楽しさ、盛りあがりはずいぶん、みな夜の更けるのを忘れて、歌い、語りあった。わが家の別荘にきたような思いでくつろいだ。

### 箱根へ

翌日は大部分の人が、箱根周遊に出かけることになった。本箱根から関所跡を見学して、早春の箱根を味わった。ここで昼食の懇親

# 会員だより

(敬称略)

内山サカエ先生(恩師) 病気で身体の動きが、思うに任せぬ日々を過ごしています。安達市郎(大2) 妻が昨年九月倒れて入院加療中のため、毎日看護に明け暮れています。

山崎キイ(大6) 元気で過しております。会のご



会を盛大に楽しんだ。

広井さんは終始行を共にして、道案内してくださった。いつもながらのご厚意には、ただ感謝のほかはなかった。

### 参加者

広井三代次、神林徳次、大矢福次、相崎尚次、佐藤重八、三重堀繁蔵、安達宗吉、星野三作、浅田喜八郎、松井重治、相崎勇次、太刀川善蔵、芝 五郎、佐藤彦一、芝 三四司、勝又 功、黒崎孝造、黒崎 正、武藤睦子、奥田佳子、奥田一男、神林全子

発展を祈っています。

品田軍治(大6) 八十二歳を迎えました。会に出席できませんが、同年代の人達によろしくお伝え下さい。

故郷を懐か念入りの頃で皆様にお会いを楽しみにしています

救世軍の仕事長い間やってきました。いま救世軍清瀬病院に、入院療養中です。

桑原沙紀子(昭4) 会報ありがとうございました。うれしく拝見させていただきました。新年会には、都合ができませんが、なり欠席させていただきますが、皆様によりしく。

丸山 春(昭5)

いつも皆様のお骨折に感謝申しあげております。

城取八重子(昭8) いつも懐しいふるさと便り、ありがとうございます。今年こそ、四尺玉が無事に上りますよう祈っています。

西田善作(昭10)

岩槻市馬込二〇四七ノ五 この度始めて入会しました。どうぞ今後ともよろしく。

黒崎音吉(昭13)

六十一年の暮明けの新年会、何かとご苦労様でございます。どうぞよろしくご指導のほどを。

五十嵐アヤ子(昭14) 会報を楽しく拝見しております。ふるさとのニュースを事細か

にお知らせいただきまして、感謝しています。

清水松次(昭17)

会報をいつもありがとうございます。楽しく、なつかしく拝読させていただきます。本年もどうぞよろしく。

箕川キヨ(昭23)

毎度楽しい会報をありがとうございます。これからも郷里の様子を、ぜひお知らせ下さい。

新沢須美(昭24)

常々ご無沙汰しておりますが新年会には出席の予定です。役員の皆様のご尽力があればこそ、会の運営もなされるわけで、感謝申しあげています。

安藤真理子(昭26)

寒中お見舞申しあげます。いつも会報を楽しみに拝読させていただきます。ありがとうございます。

本田繁男(昭27)

会のご準備は大変ですが、これからもよろしくお願ひ致します。新年会に出席するのを、楽しみにしています。

中山静江(昭29)

会報をいつも楽しみにして、拝見させていただきます。皆様のお骨折りに感謝します。

物故された会員

- 南雲吉松さん(大8) 58・11・30
  - 大塚れい子さん(大2) 59・2・6
  - 相崎政弘さん(大6) 59・8・9
  - 細野キクさん(昭3) 59・11・24
  - 丸山松江さん(大10) 59・12・17
  - 鶴田田茂さん(大14) 60・3・10
- 離れてご哀悼申しあげます。右は会として知り得た方々です。

## 母校を励ます会会計報告(自昭和58.5.1 至昭和60.4.30)

収入	¥1,241,889	支出	¥463,900
58.5.1~59.11.30		(総額)	462,900
基金(延217)	1,109,700	(残高)	704,577
基利息	57,777		
59.12.1~60.4.30		切手高	1,000
基金(29)	73,500	現在高	777,989
基利息	912		

# ふるさと・は・今

## 明るい期待

### 油田の試掘

裏山一帯のガス採掘は、町の生活向上に大きく貢献しているが、こんど高梨地内でも試掘が始まった。帝國石油の工事で町内の熱い期待がよせられている。

### ナイター照明設備

町のスポーツ広場は、中学校のグラウンドの上にあるが、今年度の予算で、着工することになった。夏までには完工の予定。スポーツの町片貝の人達が、体力増強に一

層の拍車がかかることであろう。カントリーエレベーター

完成したことは、前号でお知らせしたが、今は盛んに稼働中。初のまま貯蔵されている、多量の米は、すべてコンピューターで操作されて、脱穀、精米され、いつでもおいしい米が供給できるようになった。

広い三千坪の敷地は、これからも整備され、農協の重要な戦力となる。夏から秋にかけては、野菜を集荷して、市場へ出荷する大きな倉庫もできている。

## 東京片貝会会計報告 (自昭和59.4.1 至昭和60.3.13)

収入 ¥1,908,189 支出 ¥1,908,189

前年度繰越金	333,260	総会費	421,000
別途積立金	200,000	料理会場費	300,000
年会費	427,800	小宮製菓代	15,000
総会費(当日)	360,000	米資車代	84,000
新年会費(〃)	360,000	土産品	20,000
寄附金及祝儀	213,900	雑費	2,000
銀行利息	4,499	新年会費	342,700
雑収入	8,730	料理及会場費	291,700
		福引	45,000
		雑費	6,000
昭和60.4.20		会議費	51,828
会計部長	黒崎 孝造	会報費(2回)	140,690
〃 副部長	山口武一郎	通信送料	155,100
		事務処理費	18,680
		交際費(県人会神社)	34,000
		交通費	530
		印刷費	21,880
		記念品	46,200
		振替手数料	1,660
		別途積立金	200,000
		繰越金	473,921

上記は適正且つ正確であることを認めます。

会計監査 小川 茂雄  
大矢 幸治  
高橋 四郎

あがるぞ、今年も四尺玉が閉会とは昨年の不備をとり返えそうと意気込んでいたが、陽光会に遠慮があった。けれども同会が揚げないことになって、一気にきまった。具体的な段取りは、



これからきめるといふ。

## 母校の動き

### 県相撲大会で優勝

県下では、小学校の書道や作文などのコンクールがあるが、各種の運動競技も盛んに行われている。昨年の六月十七日に、十日町武道館で県内の相撲大会が行われた。四年一名、五年一、六年三名の計七人の団体が熱戦を展開したが見事優勝して、優勝旗をもらった。(上の写真)

### 教頭先生の異動

新年度の定期異動で、小中両校の教頭先生が変わられた。

### 小学校、成田実先生

中学校、藤田淳一先生が着任

## 二年続きの豪雪

暮の二十三日から降り出した雪は、殆どやむこともなく積った。年内で三米となり、ただ毎日空を仰いで歎くのみであった。三十日には、PTAを緊急動員して、校舍の屋根の雪下ろしをした。

この大雪で庭木をはじめ、杉や松、竹などがたくさん折れた。除雪費用をはじめ、樹木の損害は多大なものとなった。

### 消費パイプ完工

(大屋敷一山屋間)

パイプ用の井戸を掘るとともに県道の消雪工事が、三月末に完工した。こんどの冬から、道路の交通も一層便利になる。

## 魚沼線廃止

### その後

魚沼線の線路は、昨夏撤去され駅前の官舎も姿を消した。駅舎も

近く取りこわされる。

歴史の歯車が、大きく回っていることを、まざまざと見せつけてくれている。

このための交付金で、一之町、三之町、五之町の五カ所、モダンなバス停ができた。雨天や炎暑の時に大きな助けとなっている。魚沼線のレールを美しくメンキして、ケースに入れて売り出している。支所で二五〇〇円

火葬場が小千谷へ  
今あるのは、七月末までで廃止



となり、八月から小千谷で執行することになるという。遠くなるが設備はほぼはなものである。交通事故のこと

昨年の秋、高梨と屋敷で二名の方が死にされた。ガードレールも、毀壊もない歩道だから、歩いていて、いつも危険を感じているのは、どなたも同感のことと思います。

(写真、上は大雪、右はバス停)

## 小野勇先生ご紹介

この秋母校の子ども達に、講演して下さる小野先生は、千葉医大医学部卒。築地の国立がんセンターの頭頸部医長、日本がん治療学会評議員、日本頭頸腫瘍学会の運営評議員、などの要職を兼ねておられます。医学博士、一面参照

## あとがき

会報がお手許に届く頃は、故郷の雪も漸く消える頃と存じます。皆様のご協力と支援によって、31号をお送りすることができたことを、厚く感謝申し上げます。来る総会には、郷里の方々と、又旧友と、共に語りあえることを楽しみにしています。どうぞ奮ってご参加ください。